中学校　国語　　古文⑥　～歴史的仮名遣い⑤～

（　　　）年（　　　）組（　　　）番　名前（　　　　　　　　　　　　　　）

一 次のー線部の歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し、すべて

　ひらがなで書きなさい。（１０点×１０問）

おのれ古典（イニシヘブミ）をとくに、師の説と①たがへること多く、師の説のわろき事あるをば、わきまへいふことも②おほかるを、いとあるまじきことと思ふ人おほかんめれど、これ③すなはちわが師の心にて、つねに④をしへられしは、後によき考への出來たらんには、かならずしも師の説にたがふとて、なはゞかりそとなむ、敎ヘられし、こはいと⑤たふときをしへにて、わが師の、よにすぐれ給へる一つ也、大かた古ヘを⑥かむかふる事、さらにひとり二人の力もて、ことごとくあきらめつくすべくもあらず、又よき人の説ならんからに、多くの中には、誤リもなどかなからむ、必わろきこともまじらではえあらず、そのおのが心には、今はいにしへのこゝろことごとく明らか也、これをおきては、あるべくもあらずと、思ひ定めたることも、おもひの外に、又人のことなるよきかむかへもいでくるわざ也、あまたの手を經（フ）るまにまに、さきざきの考ヘのうへを、なほよく考へ⑦きはむるからに、つぎつぎにくはしくなりもてゆくわざなれば、師の説なりとて、かならずなづみ守るべきにもあらず、よきあしきをいはず、ひたぶるにふるきをまもるは、學問の道には、⑧いふかひなきわざ也、又おのが師などのわろきことを⑨いひあらはすは、いともかしこくはあれど、それもいはざれば、世の學者その説にまどひて、長くよきをしるごなし、師の説なりとして、わろきをしりながら、いはずつゝみかくして、よさまにつくろひをらんは、たゞ師をのみ⑩たふとみて、道をば思はざる也、宣長は、道を尊み古ヘを思ひて、ひたぶるに道の明らかならん事を思ひ、古ヘの意のあきらかならんことをむねと思ふが故に、わたくしに師をたふとむことわりのかけむことをば、えしもかへり見ざることあるを、猶わろしと、そしらむ人はそしりてよ、そはせんかたなし、われは人にそしられじ、よき人にならむとて、道をまげ、古ヘの意をまげて、さてあるわざはえせずなん、これすなはちわが師の心なれば、かへりては師をたふとむにもあるべくや、そはいかにもあれ

点

（本居宣長「玉勝間」～師の説になづまざる事～による）

①　　②

③　　④

⑤　　⑥

⑦　　⑧

⑨　　⑩